

(目次)

アルカリ長石抽出—鉛同位体比法による 縄文土器のグルーピング

A Grouping of Jomon Pottery Based on the Lead Isotopes of
Extracted Alkali Feldspar

坂本 稔・西谷 大・齋藤 努

はじめに

① 原理

② 資料

③ 実験

④ 結果と考察

おわりに

[論文要旨]

縄文土器産地の自然科学的な推定法として、青銅製遺物中の鉛の産地推定に成果をあげている鉛同位体比の適用を試みた。土器胎土に含まれるアルカリ長石は鉛の濃度が高く、その同位体比は初生時の値を保持しているため、地質学的な情報を反映している。土器の胎土から重液分離法によりアルカリ長石を抽出し、高周波加熱分離—鉛同位体測定法により鉛同位体比を測定した。

九州・南西諸島で出土した縄文時代前期の土器計39点を用いた。分析結果は土器型式との相関を示さなかったが、出土地との間には緩やかな相関が見られた。森貝塚(熊本)出土の土器と沖縄本島出土の土器とは、鉛同位体比から明瞭にグルーピングすることができた。他方、南西諸島の島々から出土した土器はグループを形成しなかった。有力な粘土層を持たない島では島外から胎土や土器の流入を受け、種々の地質学的性質を有した土器が出土した結果と考えることができる。